

絆 求め て

1月16日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



秋季公開講座ご参加ありがとうございました

令和4年11月26日(土)、神戸大学大学院教授 北野 幸子先生を講師にお迎えし、「秋季公開講座」をWEBで実施しました。テーマは、「こどもの誕生からの育ちに立った保育と保育者の役割」で、「今、求められている、子どもの教育観の転換」「個別最適化教育と協働的学びの実現」「誕生からの育ちを支える保育者の専門性」「社会情動的(非認知的)力をみとる」…など、SDGsの目標4「すべての乳幼児に誕生からの質の高い保育を保障する」という視点に立って、子どものウェルビーイング(本質的に価値のある状態)、保育現場や保育者に期待されている専門性についてお話をいただきました。

<研修から学んだこと>

- 幼児教育は前倒しの教育ではない。まだ〇〇ができないという観点で子どもを見るのではなく、誕生からのその子の育ちがどう積みあがってきているかを考え保育する。
- 知識技能を伸ばすこともできるが、それよりも知識技能に汎用可能な非認知力を伸ばしていけるようにしたい。
- 保育者は、豊かな体験を通して、こども達の「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を伸ばしていきたい。
- 保育者は、発達の手順を理解し、発達の見通しを持って子どもの思いに寄り添いたい。そのためには、待つこと、見守ること、年齢に合わせた保育者の関わり方が重要になる。
- 子どもに対し禁止・制限をすることは、誰にでもできる支援。大切なのは、どこまで信じるか、どこまで良いのかを考えることであり、それが保育者の専門性になる。保育者としてのゆとりと柔軟性を大切にしたい。

<今後の保育実践に生かしたいこと>

- 2歳児でも“自分で”決めた、考えたという経験が大切というお話をいただいたので、子どもが自分で考えられるような意識を職員で統一していきたいと思いました。また「〇〇ちゃんもケーキ作りしていたよ」などといった感情と感情をつなぐ保育、経験と経験を つなぐ保育も意識して取り入れていきたいと思えます。そして、他の保育者とも今回の研修での話を共有し、クラス全体、幼稚園全体でより良い保育にしていきたいと思いました。
- 集団生活の場である以上、ルールや約束というのはもちろん大切であるが、その中でも子どもの育ちに大切なことを考えた上で、どこまで制限するのかといったことをプロとして再度考え直していきたい。感覚が一番敏感な時だからこそ、たくさんのことを吸収できる。だからリアリティな体験というのは多く経験できるような環境を作れるよう心がけていきたいと思った。
- 園に通っていけば、興味がないことでも、ほかの子が興味があればその知識に触れることができる。と北野先生がおっしゃっていたので、手作りの図鑑など何か形になるものを作って、みんなで見られるようにできたら楽しいかなと思った。
- 誕生からの育ちを考えた時に「まだ」「できない」など、遅れや不足ばかりに目を向けがちになってしまう事があります。そのため集団で子どもを見ているとどうしても出来ない子ばかりに目を向けがちで、怒ってしまったり何で出来ないのだろうと思ったりする事が多いです。でも子どもの成長や発達はそれぞれ違うという事を忘れずに一人一人の子と接していきたいと思えます。
- 発達における順序性の一般的な法則をしっかりと捉えた上で、遅れや不足ばかりに目を向けず、個々の育ちに寄り添った支援や、見通しを持った保育を大事にしていきたいです。そして、子ども達が自分の個性を発揮させ、認められ、受け入れられるような環境作りができるよう努力したいと思えます。

- 私は、今年度、自分の思いをお友達に伝え、受け入れる。そして自尊感情を高めたいという願いから、クラスで今日の遊びを話す場面や、意見を伝える時間を作ってきました。初めは中々お友達の話静静地に聞く事はできませんでした。何度も機会を作るうちに、自分の話を聞いてもらえた、受け入れてもらえたという思いから、自分の思いも伝え、相手の話も聞こうという姿勢に変わっていききました。そういう小さな経験が積み重なり、今行っている劇の練習ではそれぞれ子ども達が考えた振り付けの話し合いの場が、意見を出し合い、受け止めあい、良い方向に進み、自分達で作り上げていると感じながら満足して活動が進んでいます。本日お話いただいた、プロセスを楽しむ、子どもの予想外の言動を面白がるという事に繋がると感じました。子ども達の自己主張が多い園ほど、思いやり、協調性が高いという研究結果を受け、私達も子どもと一緒に保育を作り上げていきたいと思ひます。
- 凶鑑や玩具を用意するだけではなく、好きなことを調べてまとめた過程や結果を掲示したり、得意なことを披露できる場を設けたりして、子どもの“好き”を形にしていくのもいいなと思ひました。
- 先生のお話を伺い、迷い始めました。子どもの主体的な遊びを中心とした園を目指しているのに、当園は主体的な遊びが少ないのではないかとということです。運動会や発表会に費やす時間が多いのではないかとということです。これを自己課題とし、自問していきます。
- 一人一人が今好きなこと、興味あることに挑戦したり、身近な環境に3歳なりに主体的に関わったりできるように、子どもたちの意見も聞いて、一緒に楽しめればと思ひます。また、「まだ出来ない」と心配される保護者の方には、知識や技能の取得を焦らなくて良いことを自信を持って伝えられればと思ひます。
- リアルを知らないとバーチャルも作れないという言葉が衝撃だった。今の時代バーチャルが主流になっているからこそ幼児期はたくさん体を使って遊びをしていく中で、体の使い方や自然の素晴らしさを感じ、それが後の子どもたちの未来へと繋がって行けるよう、子どもたちと関わっていききたいと感じた。
- 自分自身の固まった保育を見直しながら、決まったカリキュラムとにらめっこしながら変えていききたいと強く思ひました。
- 自分自身心に余裕が無いと感じることは多々ある。そして、そのような時は保育を楽しめておらず子どもたちに対してもよりよい対応が出来ていないと実感している。その事を頭に置き、子ども達が自分のことを大切に思い、自分が尊いと思えるような保育ができるよう努めていききたいと感じた。
- 子ども達が安心安定して自分を発揮したり、有能感、達成感を得られたりするように、まずは私自身が「○○だね」と些細なことでも共感し、クラス全体に広げていけたらと思ひます。そうすることを通して、他者への関心から思いやりが育ち、みんなで同じ規範意識を持って生活できるクラスにしていけたらと思ひます。
- 先生が学び続けている先生がいると子どもたちも伸びるということを聞いたので、これからも研修など積極的に参加していききたい。
- 私は現在3歳児クラスを担当しています。友だちとの関わりも増え、遊ぶ中で自分の思いだけではなく友だちにも思いがあり、いざこざになる姿が多く見られます。しかしいざこざを何回も繰り返す中で少しずつ友だちにも思いがある事を理解し、受け入れていく姿が見られるようになってきました。今回北野先生より「自分で経験が大事」という話をお聞きし、保育活動での子ども達自身の経験を大事にしていきたいと思ひました。また、幼児期にしかできない多様な経験ができるよう、保育者として必要な環境を整えたり、活動を見守る援助を大切にしたりしていききたいと思ひました。特に子ども達が本物に触れる経験ができるよう環境を整えたいと思ひます。

今回の研修では、保育者が子どもに対してどのような立ち位置、距離感をもち関わるか、その間合いの重要性について考えさせられる内容だったと感じました。そしてその間合いを決め出す上で、保育者として子どもを見る目、すなわち保育者としての保育力が大切であることが分かりました。研修を通して幼児期の保育の重要性を再認識し、保育者の責任の重さを実感した先生も多かったのではないかと思ひます。北野先生の、「まあ、いっか〜と、先生も自分自身を許すこと。肩の力を抜いて。遅れや不足を気にし過ぎず、広い見方をして自分自身がまず楽しみながら」とのアドバイスを心に置いて、子どもたちの保育に携わっていききたいですね。 (専門員 久保田)